

●マイホーム……。もしも私が家を建てたなら……。男と希望にあふれているうちは良いのですが、いざとなると資金のことや、間取りのことなど考えることがありすぎて、悩みすぎたり、果ては夫婦ゲンカ。「ああ、もうめんどろっだ」と業者まかせ、住んでみると不満だらけ。「無理して家なんか建てなきゃよかった……」。これではあまりに暗い家づくりですね。やっぱり家づくりは明るく楽しくなければいけません。

資金のことや、契約の際の注意点、断熱の知識やその他の技術的なことについては、本誌をはじめ、たくさんの方が情報があり、みなさんもかなり勉強なさっていると思いますので、今回は家づくりのソフト面といたします。暗い家づくりにならないための気持の持ちかたみたいなこと。そう、やわらかくいいことについて考えてみたいと思います。

家づくりって、

レジャーかも？

週休二日もそれなりに定着してきて、世はまさにレジャーの時代です。海や山、自然を楽しむもの、さまざまなスポーツ、おフロさえもレジャー化しています。そして、これらのレジャーはたいへんお金がかかるものがふえています。歌をうたったり、おいしい水を飲むことでさえお金がかかる時代です。そこで考えてみたいのは家づくりは一生に

一度のとてもせいたくなくレジャーではないかということ。二十年のローンで買ったものに何のん気なことを？とおこられるかもしれません。逆に考えれば、これだけお金がかかるんです。楽しめない手はないでしょう。

お金かけて悩んだり、暗くなったりするって、嫌いです。お金あたい楽しもうと考えると、こんなせいたくなくレジャーはありませんと当然のことながら、レジャーは家族みんなを楽しみ、満足できるものでなければいけません。キャンプに行く前は、おそろい、さうき、けれど、道順を何度も確認したり、忘れものはないかリュックの中を点検したり準備に余念がありません。家づくりも同じ、楽しもうと思えばやはりそれなりの準備や知識が必要なんです。キャンプで迷い子にならないために……。

家づくりって

夢の実現なんです

空間の考え方やインテリアの好み、間取りの構成や使い勝手などは、幼児期と青年期（社会人として自立したころ）の影響が大きいというです。



(社・北海道建築士会)
札幌市部青年委員会

「明るくやわらかくよい」のノリで。



小さいころアパートに住んでいたとか、一軒家だったとか、近くに大きな家があったとか、学生時代から六畳一間で一人暮らしをしていたとか、そんないろいろな環境の中での経験が潜在的なものになり、家づくりに対する「あこがれ」とか「夢」という形であらわれってきます。恋愛時代にお互いの将来の夢を語りあった時のようなそんな気持で家づくりの夢を語りあってみましょう。

「若いカップルじゃあるまいし、いまさら照れくさい、めんどくさい」と言わないうで、お互いの心の奥にあるものをさがしてみましよう。そして見つけたそのイメージを家というスクリーンに映し出していくのです。そういう潜在的な「夢」、みたいなものをどのくらい影としてあらわすことができるかが大切なわけです。あなたの夢が満たされていない家で、子供の夢をはぐくむことはできません。

変わったからつくる つくるから変える

人は生活の一部や習慣をかえるとき、そのきっかけというが、理由みたくなものがあるが欲しいようです。例えば「子供が生まれたらタバコをやめよう」とか「四十才になったらジョギングをはじめよう」とか。

さて家づくりについてはどうでしょう。家をつくること自体にも「子供が大きくなったから」「親と同居するから」中には「家の一つくらい持たないと恥ずかしい年齢だ」なんていう人もいます。いずれにしても、家をつくるきっかけは生活や年齢的なものの

変化ということになります。

当然のことながら、その時点での生活のニーズに対応できる家づくりを考えていかなければなりません。それが家づくりの基本です。しかし、楽しい家づくりはもう一歩進めて考えてみるのです。「家をつくるんだから……しつかり」つまり、家づくり自体を生活をかえらさず、きっかけにするということです。

環境が変わるので、必然的に生活もかわっていきます。しかしかわっていくのではなく、かえていくのだという気持を持つのなら、家を建てるというのは本意によいきっかけではないでしょうか。

どんな家庭にも多少の問題はあるものです。家づくりという生活を見直すその最良の機会に、家族の関係についてや、コミュニケーションのあり方、教育のことなどいろいろをことを発展的に考えていきましょう。深刻にならないのではなく、あくまで楽しみながら……。せつかく家という「岩」が新しくなったために、その中にすむ人の「心」がリフレッシュされていくのでは、何もありません。

街並みを考える

新興住宅地は道路が整備され、「金曜日の妻たち」が住む白い家々が整然と並び並ぶ。これから家を建てられるみなさんの多くはこのようなよい環境のところに建てられるでしょう。

都市計画とか地区計画とかそういうむずかしいことはお役所がいろいろ考えています。また、街並みの美観とか、21世紀のまちづくりとかは偉い学者さんとか、建築家が考えています。それはとても大切なことです。お

て街づくりとの関係を考えてみてはどうでしょう。

建てようとする街を歩いてみてその空とか風とか光とかそういうものを肌で感じて、家づくりの中に展開させていくのです。感じ方もさまざまでしょうし、展開のさせ方もそれぞれ違うでしょう。しかし、そういう違いを個性というのではないでしょう。街はそんな個性の集まりです。

街並みの中の一つであるということは、自己の個性の再認識であるわけです。そんなわずかに考えなくてもいいのですが、その街のイメージを感じとってそれをふくらませて家づくりを考えることは楽しいことです。そしてそういう気持が集まって街はまた新たなイメージを創り出してゆくのです。

すてきな闘い

実際に設計の段階に入ってから、設計者と打合せをするのに、どこまでまかせるか、という問題がありますが、これは非常にむずかしいところ。先に述べましたような、家づくりに対する気持や夢みたいなのをどのくらい設計者に伝えることができるかということなんです。

「あーしたい、こーしたい、こんなふうにできないか」あなたはわがままでもいいんです。それに対して設計者は「そんなこと技術的に無理です」「できませんけどお金がかかりすぎます」と答えてくることになり。『そー

その結果に対してあなたが、「これならば満足できる」とか「やっぱりだめだ」と判断すればいいわけです。そういうキヤッチボールをしていかないと、どうしても不満が多く残ってしまいます。

家づくりに対する熱い想いと理想を求めるあなたに、設計者が持てる技術と知識のすべてを出して答える。これは家づくりというテーマの中でのすてきな闘いです。

施工者との間でも同じことが言えるわけで、例えば見積書の中の材料費までを疑うことは必ずしも良いことではありませんが、「水増しされているのでは？」と気になることは、技術的なことについても「このくらの誤差や狂いは普通ですよ」と言われてもどうしても納得できない。そんなことの一つ一つについても、あなた自身の理想や計画と技術者である相手とのかけひき、つまり闘いなわけです。闘いというは多少大げさで、暗いイメージになるかもしれませんが、お互いが切磋琢磨しより良いものを求めていく姿は、やっぱりすてきな闘いと言えるのではないでしょう。

気くばり、物くばり

家を建てるということとは街並みを形成するその一部になるのだということには先に述べたとおりですが、そういうむずかしいこととは別に近所づきあいというものがあります。これから先何十年も住むわけですからこれは重

をかけるのは新築の工事中ですね。とすると本当にあいさつをしなければならぬのは、工事を始める前後でしょう。今度こちらに家を新築します〇〇でございます。工事中何かとご迷惑でしょうがよろしくお願ひします。

お子様など現場の方でお遊びにならないようお気をつけ下さい。何かお気付きのことがありましたらこちらまで連絡願ひします」と、このくらのあいさつはしたいものです。

そんなの常識でしょうとおっしゃるかもしれませんが、家外とおこなわれていないようです。

昔は、上棟式（たてまえ）で近所の方を集めて餅をまいたりしたのですが、最近はそのままでする方も少ないのでしようが、やはり近所に対して何らかのあいさつはしておいた方がよいのでしようね。

上棟式の話がたところで余談ですが、建売住宅は上棟式をしているのでしようか？。地鎮と家内安全、工事の安全を願う上棟式が行なわれていないとしたら……。気にしはじめると、眠れなくなるかな？。でも大切なことだと思ふのですが。

引っ越しのあいさつの話から街づくりの話まで、いろいろをお話しをしましたが、家づくりっていうのは楽しんでするんだということはおわかりいただけだと思います。

「こんな楽しいこと人にまかせられない」そんな気持になったなら、いろいろ調べたり足を運んでみるのも楽しくなってくると思